



膨大なストックが植竹氏の手によってきちんと整理された。別棟にあった倉庫からも、使えそうなものはすべてこちらに整理され陳列されている。



貴重な元箱付きの個体もけっこうある。もちろん後期のものが多いようだが、アンプだけでなくカセットデッキのものなどもあり、むしろレア。



サンスイが代理店を務めていたスベンドールも元箱付きのデッドストックが掘り出されたりしている。まさに宝の山という表現がぴったり。



なんと07シリーズになる以前のアンプも大量にストックされている。ラップされているものは程度が良いもの。むき出しのものはパーツ取り用個体。

サンスイのアンプがどれほど人気が高いかは、本誌をご覧いただいている方なら良くご存知だろう。
日本のオーディオ黎明期から、ある時期はトランスメーカーとして、時代が下った後はオーディオ御三家として絶大な人気を誇った。その時代を知るベテラン・オーディオ・マニアはもちろん、今や希少な部類となった重厚な雰囲気とデザインを持つアンプとして、若者にも人気が高いと聞く。
そんなサンスイだが、まだ公式カスタマーセンター（サービスセンター）が2か所だけ残っていることはご存知だろうか。ひとつは前号で紹介した福岡にあるオーディオ・サービス・エンジ

ニアリング。そしてもうひとつが今回ご紹介する茨城のIDKだ。もともとサンスイからカスタマーセンターをまじめ役として指定されたIDKが、未だこうしてサンスイ・ユーザーを支え続けてくれていることは奇跡と言ってもいいだろう。
これまで何度か本誌でもサンスイやナカミチ（IDKはかつてはナカミチのサービスも行っていた）の特集ではお世話になってきたが、今回あらためてIDKから連絡をいただいたのが、公式のリビルド（レストア）アンプの拡充を行う、ということだった。以前より少しづつ進めていたプロジェクトを、いよいよ本腰を入れて再スタートさせる、とい

うのだ。
このプロジェクトは、もともと修理の部品取りのために入手した個体や、ユーザーが修理を諦めてしまった個体などを、IDKが持つ純正パーツとオリジナルのサービスマニュアルに沿って、元の姿に戻し、販売するというもの。まるでアップルの「認定整備済製品」のようなシステムだ。違うのはサンスイのアンプはもう新品で手に入らないということ。つまりIDKの公式リビルドア

ンプが、現在入手できるサンスイのアンプとしてはベストコンディションと言っているだろう。
実際のところ、なぜIDKがこの公式リビルドアンプに本腰を入れ始めたかという、ひとりのエンジニアの加入がきっかけだったという。

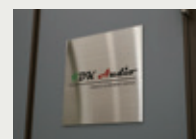


サンスイのカスタマーセンター、公式整備済みのアンプに注目!!

IDK Audio

2023年の今、公式カスタマーセンターが純正パーツを使って、純正ドキュメントに沿って整備した、極上のサンスイが手に入るとしたらどうだろう。そんな夢のような場所が茨城にあった。

写真と文・澤村 信



株式会社IDK

〒300-2354 茨城県つくばみらい市新戸110-1
TEL 0297-20-7800
HP <https://idkcorp.co.jp/>
営業時間 来店は要問い合わせ
定休日 土日祝日

ステレオ時代 **バックナンバーのお知らせ**



ステレオ時代 Vol.22

名機“テンモニ”大研究

特集:我が青春のマクセル

- 「戦略物資」とされたカセットテープ
Metal Vertex開発ストーリー
- マクセル史料館に国産カセットテープ
56年の歴史を学ぶ
- DJ系フォノカートリッジ便覧
- ソラの帰還と東芝一世紀半の歴史
～東芝アーカイブに国産家電一世紀半の歴史を見る

定価:1,650円(税込)



ステレオ時代 Vol.23

Eシリーズはアキュフェーズの異端なのか

特集:Accuphase E series

- 初期のEシリーズたち
E-202/E-303/E-301/E-302
- アキュフェーズEシリーズはこうして生まれた
- できれば1万円以下がいい。
安物プレーヤーで「楽しむ」
- 70～90年代の小型フルレンジ・スピーカー聴き比べ

定価:1,650円(税込)

ステレオ時代Vol.22、23は書店では購入できません。
右記の公式HP(送料無料)または特約店よりお買い求めください。

<https://stereojidai.com/>

なお、銀行振込でのご購入をご希望の方は、件名を「銀行振込」とした上で、お名前、郵便番号、ご住所、電話番号を記載のうえ、info@stereojidai.comまでメールでお知らせください。折返し、入金口座をお知らせいたします。ただし銀行振込でのご購入には送料(185円)を別途頂戴いたします。



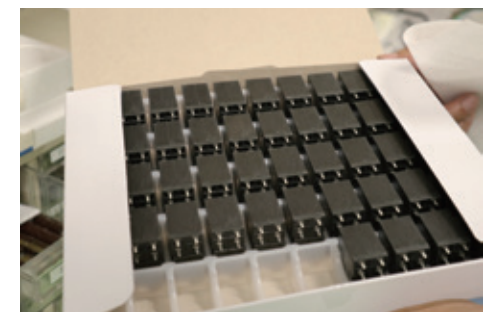
プロトタイプと思われるコントロールアンプC-2302。
「SANSUI」のバッジが、製品版はエンボス加工になっているらしい。また背面のシリアルもなし。



プロトタイプと思われるコントロールアンプC-2302。
「SANSUI」のバッジが、製品版はエンボス加工になっているらしい。また背面のシリアルもなし。



後期の上級モデルのサイドウッドはフィルムが貼られていたが、そのフィルムが経年で割れてしまうそう。左の2つはIDKで製作したもの。



純正パーツの一例。こうした音に直結するパーツは、やはり純正パーツでないとい音が変わってしまう。極力オリジナルに忠実に直していくという。

もともとIDKには純正パーツも整備マニュアルのようなオリジナルの資料も揃っていたが、サンスイOBのような修理のエキスパートがいたわけではなかった。他の電子機器の修理エンジニアがオーディオの修理も行って、というのが実情だった。そんなIDKに昨年、某オーディオメーカーで開発に携わっていたエンジニアが加入。それが植竹和芳氏だった。

オーディオメーカーの第一線で活躍されていたこともあり、耳と腕には自信あり、ということだが、その植竹氏がIDKにやってきて衝撃を受けたのは、パーツ取り用としてストックされていた個体のコンディションと数だったという。

「まさに宝の山だと思いました」と植竹氏。ショックを受けていた植竹氏に追い打ちをかけたのは「別の倉庫にもたくさんストックされていた」という事実。「これはただの部品取りにしている場合じゃない、と思いました」。そこで植竹氏は、これまでIDKが修理の傍らに行っていた整備済み品の販売を拡充するようにIDKは会社としてこの事業を推し進めることを決定したという。